



マイクロハイファイ コンポーネントシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



LCX-T120

©2004 Sony Corporation

目次

この取扱説明書の使いかた	3
ディスクについて	3
<hr/>	
接続と準備	
本機をつなぐ	4
<hr/>	
CD 再生	
ディスクを入れる	8
ディスクを再生する	8
(ノーマル)	
くり返し再生する	9
(リピート)	
好きな順に再生する	10
(プログラム)	
<hr/>	
ラジオ	
ラジオ局を記憶させる	11
ラジオを聞く	12
<hr/>	
テープ 再生	
テープを入れる	14
テープを聞く	14
<hr/>	
テープ 録音	
ディスクを録音する	15
(シンクロ録音)	
好きなところから録音する	16
(マニュアル録音)	
<hr/>	
音の調整	
音量を調節 / 表示する	17
好みの音にする	17
<hr/>	
タイマー	
音楽を聞きながら眠る	18
(スリープタイマー)	
<hr/>	
別売りの機器を使う	
別売り機器をつなぐ	19
別売り機器の音を本機のスピーカーで 聞く	19
市販の外部アンテナをつなぐ	20
<hr/>	
故障かな？と思ったら	
症状と原因	21
<hr/>	
その他	
使用上のご注意	26
保証書とアフターサービス	28
主な仕様	29
各部のなまえ	30
索引	32

録音についてのご注意

- ・録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- ・マイクロハイファイコンポーネントシステムの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- ・あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用はできません。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るもののです。

窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

この取扱説明書の使いかた

この取扱説明書では、主にリモコンによる操作を説明していますが、本体の同じ、または類似した名前のボタンを使っても同様の操作ができます。ただし、テープの操作は本体のボタンを使います。

ディスクについて

本機では次のディスクなどを再生できません。

- ・円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型など）をしたディスク
- ・紙やシールの貼られたディスク
- ・セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどののりがはみ出したり、はがしたあとがあるディスク
- ・市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク
- ・8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使用したディスク

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

CD-R/CD-RWについてのご注意

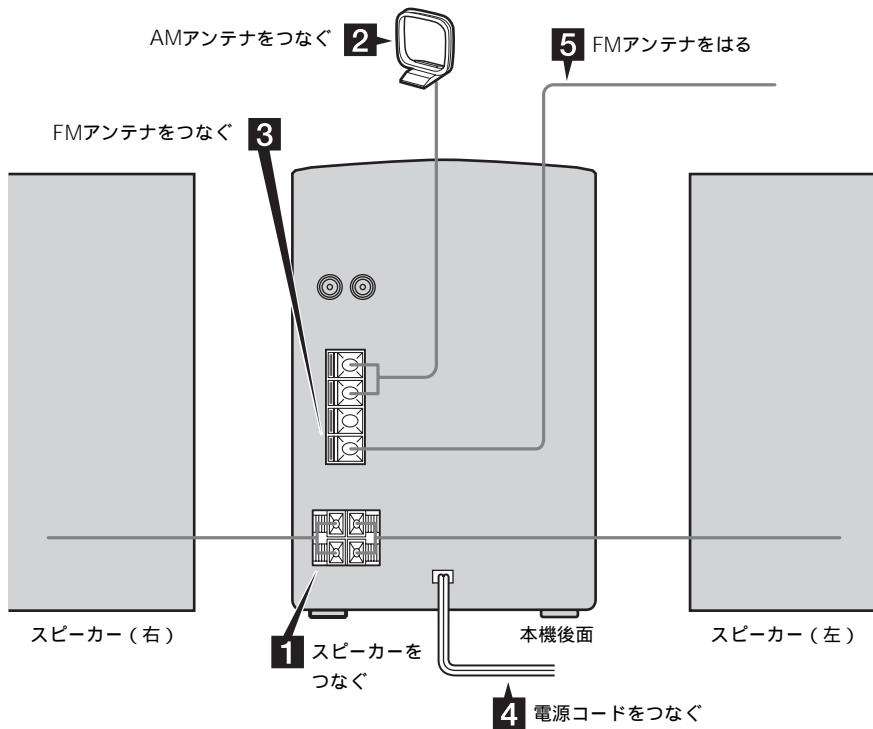
- ・本機はお客様が編集したCD-R/CD-RWに再生対応しています。ただし、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ・ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をしていないCD-RおよびCD-RWディスクは再生できません。

本機をつなぐ

付属のアンテナやコードを**1**~**5**の順につなぎます。

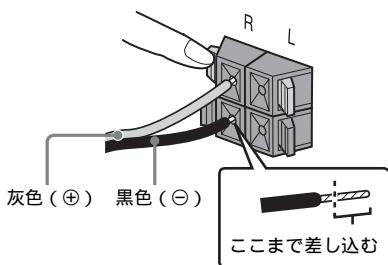
付属のアンテナは室内用です。安定した受信のためには市販の外部アンテナの接続をおすすめします。

外部アンテナを含め、別売り機器の接続については、19ページをご覧ください。



1 スピーカーをつなぐ

本機のスピーカー端子に、スピーカーコードをつなぐ。



ご注意

- スピーカーコードはアンテナから離してください。ラジオ局受信時の雑音の原因になります。
- 付属のスピーカーには、右／左用の区別はありません。向かって右に置いたスピーカーを「R」と書かれた本機のスピーカー端子につなぎ、左に置いたスピーカーを「L」と書かれたスピーカー端子につないでください。

2 AMアンテナをつなぐ

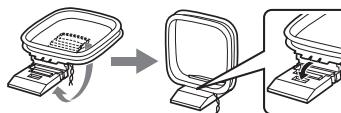


AMの電波を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

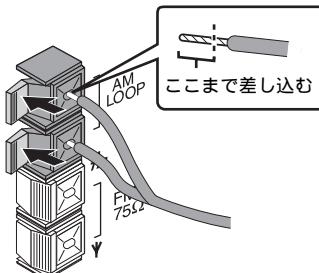
- ループ(~~~~~)になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

- スタンド状に組み立てる。

台を起こし、溝にはめます

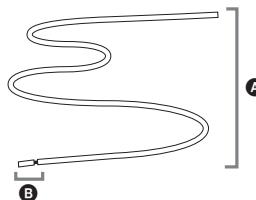


- AMアンテナ端子のレバーを倒してアンテナコードの芯線を差しこみ、レバーを戻す。



- アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりと接続されたことを確認する。

3 FMアンテナをつなぐ



- A** 受信状態の良い方向へ向け、壁や天井にはりつける。全体がアンテナになっています。丸めたりしないでください。

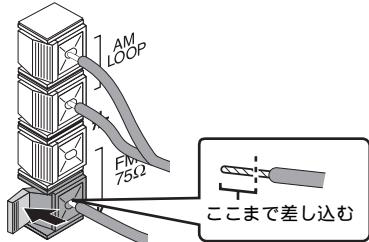
- B** アンテナ端子への差し込み部分

FMアンテナ端子へつなぐ

1 差し込み部分**B**のカバーをはずす。



2 γ 表示のあるFMアンテナ端子のレバーを倒してアンテナコードの芯線を差し込み、レバーを戻す。



3 アンテナコードを軽く引いてみて、正しく接続されたことを確認する。アンテナコードが端子から抜けてしまったときは、もう一度つなぎ直してください。

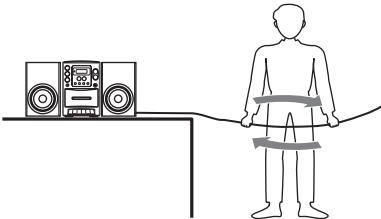
4 電源コードをつなぐ

すべての接続を終えたら、壁のコンセントへ電源プラグを差し込みます。

5 FMアンテナをはる

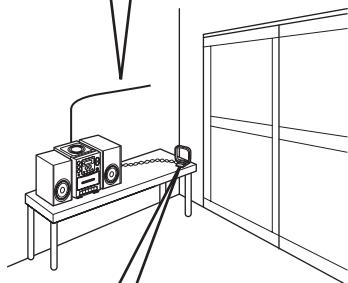
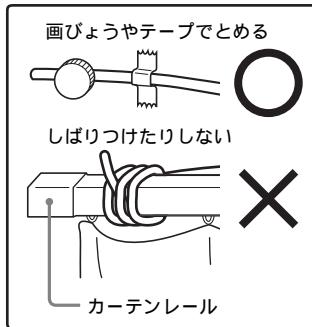
「手動受信してプリセットする」(12ページ)の手順2でFM局を選んで受信した後、次のようにアンテナを壁や天井にはってください。

1 両手でアンテナの先を持ち、体の向きを変えながら受信状態のよい向きを探す。



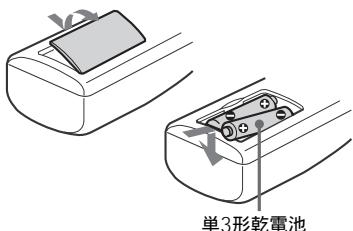
壁にはるときは、受信状態のよい壁面を探してください。

2 方向が決まったら、画びょうやテープではりつける。



AMアンテナは、できるだけ窓の近くに置くなど、置く位置や、向きを変えて受信しやすい状態を探します。

リモコンに電池を入れる
必ずイラストのように●極側から電池を入れ
てください。



単3形乾電池

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - \oplus と \ominus の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、本体に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言

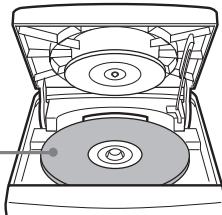
電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい乾電池に交換してください。

CD 再生

ディスクを入れる

- 1 本体のOPENを押して、ディスクを入れる

文字の書いてある面
を上に、シングル
CDは中央のくぼみ
に入れる

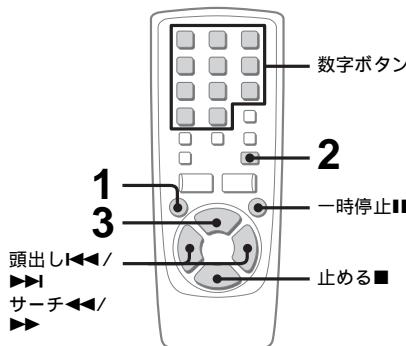


- 2 CDふたを閉める

ご注意

- 中古ディスク/レンタルディスクで、シールなどののりがはみ出したり、はがしたあとがあるディスクは使わないでください。ディスクが取り出せなくなったり、本機の故障の原因になることがあります。
- ディスクを重ねて入れないでください。
- レンズ部に触らないでください。レンズが汚れると、正常に演奏できなくなることがあります。

ディスクを再生する (ノーマル)



- 1 電源を入れる

- 2 ファンクションボタンをくり返し押して、ファンクションをCDに切り換える
総曲数と総再生時間が表示されます。



- 3 聞く▶を押す



ご注意

- 演奏中に近くにあるテレビの画面が乱れたり、ラジオに雑音が入る場合は、本機をテレビやラジオから離してください。
- 録音済みのCD-RWディスクを入れると、総曲数が表示されるまで約15秒かかります。

ちょっと一言

CDがディスクトレイに入っているときは、本体のCDを押すだけで自動的に電源が入り、演奏が始まります（ワンタッチプレイ）。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	止める■を押す。
一時停止する	一時停止II（または本体のプリセット►II）を押す。もう一度押すと、再生を再開します。
曲を選ぶ（頭出し）	頭出し◀◀または▶▶をくり返し押す。
再生したい部分を探す（サーチ）	再生中または一時停止中にサーチ◀◀または▶▶を押し続け、聞きたいところで指を離す。

ディスクを取り出す

止める■を押し、ディスクの回転が止まることを確かめてから、本体のOPENを押してCDふたを開けてください。ディスクが回転しているときに開けると、ディスクを傷つけることがあります。

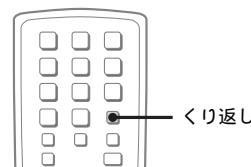
数字ボタンを使って曲番を選ぶ

数字ボタンを押すと選んだ曲から自動的に再生が始まります。

16曲目を選ぶには、+10を押してから6を押します。23曲目を選ぶには、+10を2回押してから3を押します。

くり返し再生する (リピート)

1曲または全曲をくり返し演奏します。プログラム演奏をくり返すこともできます。



再生中にくり返しボタンをくり返し押して「◀1」または「◀」を表示させる

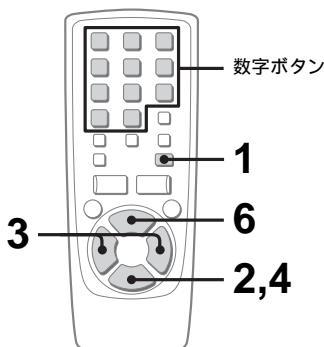
◀1：再生中の1曲だけをくり返します。
◀：再生中のディスク全体をくり返します。

リピート再生をやめるには
くり返しボタンをくり返し押して、「◀1」または「◀」を消します。

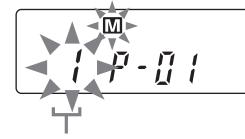
好きな順に再生する

(プログラム)

最大30個のトラック（曲）を選んでプログラムできます。プログラムした曲はテープにシンクロ録音できます（15ページ）。



- 1 ファンクションボタンをくり返し押して、ファンクションをCDに切り換える
- 2 停止中に止める■を長押しして、「■」を点滅させる
- 3 頭出し◀◀または▶▶をくり返し押して、プログラムしたいトラックを選ぶ



選んだトラック

4 止める■を押す

トラックが選んだ順にプログラムされます。

何トラック目にプログラムされたか（Step数）と、最後にプログラムしたトラック番号が表示されます。



最後のトラック プログラムの曲順

5 手順3、4をくり返す

6 聞く▶を押す

プログラムした順に再生が始まります。

その他の操作

こんなときは	操作
ノーマル再生に戻す（ノーマル）	停止中に止める■を押して、「■」を消す。
プログラムした順番を確認する	停止中に頭出し◀◀または▶▶を押す。
プログラムを途中でやめる	止める■を長く押す。それまでのプログラムを記憶して、停止状態に戻ります。

ご注意

プログラム演奏中にサーチ◀◀を押し続けても、前のトラックには戻りません。演奏中のトラックの頭から演奏します。

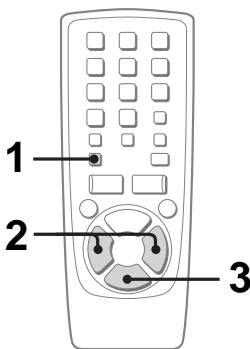
ちょっと一言

- プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています。聞く▶を押すと、同じプログラムを再生できます。ただし、CDぶたを開けるとプログラムは消えます。
- 数字ボタンを使ってプログラムしたいトラックを選ぶこともできます。手順3でプログラムしたいトラックの数字ボタンを押します。選ばれたトラックは自動的にプログラムされます。

ラジオ

ラジオ局を記憶させる

FM放送とAM放送をそれぞれ15局まで記憶(プリセット)させることができます。聞くときは、プリセット番号を選ぶだけで選局でできます。



自動受信してプリセットする

地域で受信できるラジオ局を自動的に選び、記憶させることができます。

- 1 バンドボタン(または本体のチューナーバンドボタン)をくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ

- 2 サーチ◀◀または▶▶(または本体の選局▲/▼)を長く押す
周波数表示が変わっていき、ラジオ局を受信すると自動的に止まり、「STEREO」(FMステレオ放送のときのみ)が表示されます。

周波数表示が止まらないときは
「手動受信してプリセットする」(12ページ)の手順2で聞きたいラジオ局の周波数に合わせます。

- 3 止める■を押す
プリセット番号(記憶させる番号)が1から順に記憶されます。



- 4 手順1~3をくり返し、ラジオ局を記憶させていく

ちょっと一言

自動受信を途中でやめたいときは、もう一度サーチ◀◀または▶▶(または本体の選局▲/▼)を押します。

[次のページへつづく](#)

手動受信してプリセットする

周波数をあわせて、好きなラジオ局を記憶させることができます。

- 1 バンドボタン（または本体のチューナーバンドボタン）をくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ
- 2 サーチ◀◀または▶▶（または本体の選局▲/▼）を押して、受信したいラジオ局の周波数に合わせる
- 3 止める■を押す
プリセット番号（記憶させる番号）が1から順に記憶されます。
- 4 手順1～3をくり返し、ラジオ局を記憶させていく

その他の操作

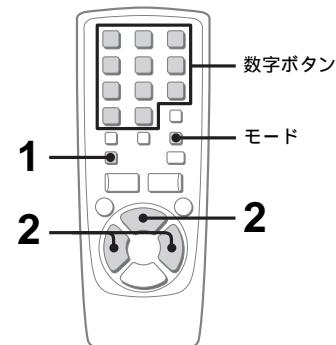
こんなときは	操作
電波の弱いラジオ局を受信する	「手動受信してプリセットする」の手順で受信する。
プリセットしたラジオ局を消す	消したいラジオ局を受信し、プリセット番号が表示されている間に止める■を「■」が消えるまで長く押す。選んだラジオ局が取り消され、以降のプリセット番号が1つずつ上ります。

ちょっと一言

- ・停電になつたり電源コードを抜いても、記憶させたラジオ局は約1日保持されます。
- ・受信状態が悪いときは、アンテナを窓の近くや外に置くなど、向きや置き場所、はる位置を変えてみてください。それでも受信状態が悪いときは、市販の外部アンテナの使用をおすすめします（20ページ）。

ラジオを聞く

好きなラジオ局をあらかじめ本機に記憶させて聞くことができます（プリセット受信）。また、周波数を合わせて記憶せていないラジオ局を聞くこともできます（マニュアル受信）。FM放送でテレビの音（1～3チャンネル）を聞くこともできます。



記憶させたラジオ局を聞く (プリセット受信)

あらかじめ本機にラジオ局を記憶させておきます（11ページ）。

- 1 バンドボタン（または本体のチューナーバンドボタン）をくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ
- 2 聞く▶（または本体のプリセット▶▷）をくり返し押して、聞きたいラジオ局のプリセット番号を選ぶ

数字ボタンを使ってプリセット番号を選ぶ手順2で、聞きたいラジオ局のプリセット番号を押す。

10を選ぶには、+10を押してから0を押します。

10以降を選ぶには、+10を押してからプリセット番号を押します。

周波数を合わせてラジオを聞く (マニュアル受信)

1 バンドボタン(または本体のチューナーバンドボタン)をくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ

2 サーチ◀◀または▶▶(または本体の選局▲/▼)をくり返し押して、聞きたいラジオ局の周波数に合わせる

テレビの音を聞く

1 バンドボタン(または本体のチューナーバンドボタン)をくり返し押して、「FM」を表示させる

2 サーチ◀◀または▶▶(または本体の選局▲/▼)を押して、受信したいテレビチャンネルの周波数に合わせる

チャンネル	周波数
1チャンネル	95.75MHz
2チャンネル	101.75MHz
3チャンネル	107.75MHz

ご注意

- ・テレビの音は、ステレオ音声では受信できません。
- ・音声多重放送は、主音声のみ受信します。
- ・VHF4~12チャンネルとUHFは受信できません。
- ・受信状態が悪いときは、本機をテレビから放すか、またはテレビの電源を切ってください。
- ・地域によっては、テレビの2または3チャンネルの音声受信時にFM放送が混信することがあります。

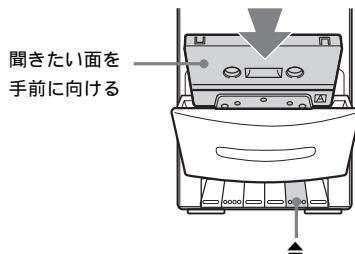
ちょっと一言

- ・受信状態が悪いときは、アンテナを窓の近くや外に置くなど、向きや置き場所、はる位置を変えてみてください。
それでも受信状態が悪いときは、市販の外部アンテナの使用をおすすめします(20ページ)。
- ・FMステレオ放送受信中、雑音が多いときはモードボタン(または本体のFMモードボタン)をくり返し押して「MONO」を表示させます。モノラル受信になりますが、雑音が少くなります。
- ・「周波数を合わせてラジオを聞く(マニュアル受信)」の手順2でサーチ◀◀または▶▶(または本体の選局▲/▼)を長押しすると、周波数表示が変わっていき、ラジオ局を受信すると自動的に止まります(自動受信)。
- ・ラジオを録音したいときは「好きなところから録音する」(16ページ)をご覧ください。

テープ 再生

テープを入れる

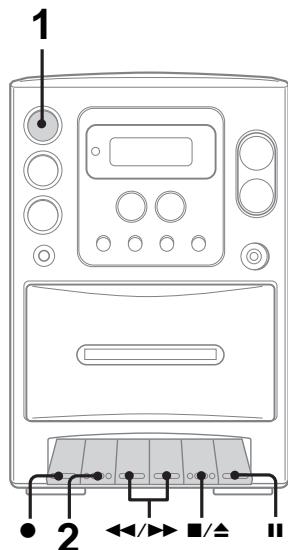
本体の▲を押してテープを入れる



テープを聞く

TYPE I (ノーマル) のテープをお使いください。

本体のボタンを使って操作します。



1 テープボタンを押す

電源が切れた状態になり、スタンバイランプが点灯します。

2 ►を押す

電源が入り、おもて面の再生が始まります。うら面を聞くには、テープを裏返してください。

他の操作

こんなときは 操作

再生を止める ■を押す。

一時停止する IIを押す。もう一度押すと再生を再開します。

早送りまたは巻き戻しする ◀◀または▶▶を押す。

テープを取り出す 停止中に▲を押す。

ハイポジション (TYPE II/クロム) テープやメタルポジション (TYPE IV) テープについて再生することはできますが、高い音域が強調された音になります。

ご注意

テープの再生を止めると、自動的に電源が切れます。テープの操作ボタン (●、►、◀◀、▶▶) が押されているときは、○(電源)スイッチやリモコンの電源スイッチを押しても電源を切ることはできません。

テープ 録音

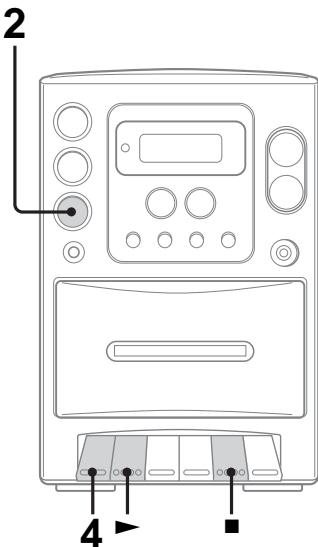
ディスクを録音する

(シンクロ録音)

1枚のCDをそのままテープにアナログ録音できます。

TYPE I(ノーマル)のテープをお使いください。

本体のボタンを使って操作します。



1 録音用のテープを入れる

録音したい面を手前に向けて入れます。

2 CDを押す

3 ディスクを入れる

4 ●を押す

▶が同時に押され録音が始まります。
録音が終わると、CD、テープとも自動的に停止します。

録音を止める

■を押す。

CDの好きな曲だけを録音するには
プログラム機能を使って、好きな曲を選んで
から録音することもできます。手順3と4の
あいだで「好きな順に再生する」(10ペー
ジ)の手順2~5の操作を行います。

ご注意

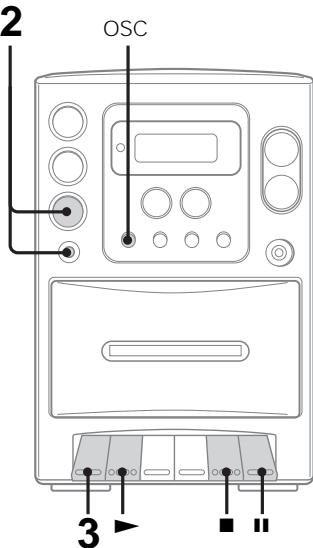
- ・録音中に音量や音質を調節しても、録音に影響しません。
- ・録音中に他の音源の音を聞くことはできません。
- ・録音にTYPE I(ノーマル)以外のテープを使わ
ないでください。正常に録音されません。

好きなところから録音する

(マニュアル録音)

CDやラジオからお好みに応じて録音ができます。例えば、CDの好きな部分だけを録音することができます。

本体のボタンを使って操作します。



1 録音用のテープを入れる

録音したい面を手前に向けて入れます。

2 録音したい音源を準備する

CDの音を録音する

CDを押してから、ディスクを入れる。

録音したいトラックを選ぶ。

ラジオの音を録音する

録音したいラジオ局を受信する(12ページ)。

別売り機器の音を録音する

別売り機器をつなぎ、外部入力ボタンを押す(19ページ)。

3 ●を押す

►が同時に押され録音が始まります。
別売り機器の音を録音するときは、つ
ないだ機器の再生を始めてください。

その他の操作

こんなときは	操作
録音を止める	■を押す。
録音を一時停止する	IIを押す。

録音を消去する

録音済みのテープにもう一度録音すると、前の録音内容は消去されます。前の録音だけ消去したいときは、CDやラジオ、外部入力が音源に選ばれていないときに、次の操作をしてください。

1 消去する面を手前に向けてテープを入れる。

2 ●を押す。

ご注意

- 録音中に音量や音質を調節しても、録音に影響しません。
- 録音中に他の音源の音を聞くことはできません。
- 録音にTYPE I(ノーマル)以外のテープを使わないでください。正常に録音されません。

ちょっと一言

AM放送録音中にピーという雑音が出たときは、OSCボタンをくり返し押して雑音が最も少なくなるように調節します。

音の調整

音量を調節/表示する



音量を調節する

音量 + または - をくり返し押す

音量を見る

表示切換ボタンを押す

ファンクションがテープ以外のときは、約4秒間現在の音量が表示されます。テープを聞いているときは音量が常時表示されます。

好みの音にする

聞きたい音楽の種類に合わせて、3種類のサウンド効果を楽しめます。



音の調整

音楽ジャンルボタンをくり返し押す
押すたびに表示が次のように変わります。



表示 サウンド効果

RO (ロック) 低音と高音を強調した音。
ロックなどを迫力ある音で再現します。

PO (ポップ) 主に中音域を強調した音。
ボーカルを際立たせます。

JA (ジャズ) 低音を強調した音。
ベースギターなどの音に厚みが加わります。

ご注意

録音中に音楽ジャンルボタンを押しても、サウンド効果は変えられません。

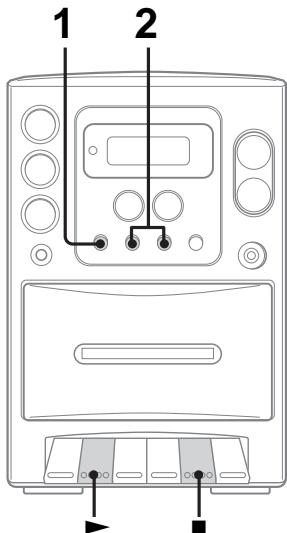
タイマー

音楽を聞きながら眠る

(スリープタイマー)

指定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。時間は10分単位で設定できます。

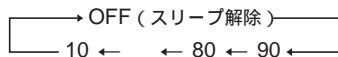
本体のボタンを使って操作します。



- 1 スリープボタンを長く押す
「30」が点滅します。

2 4秒以内に◀◀または▶▶をくり返し押して、電源が切れるまでの時間を選ぶ
押すたびに時間が次のように変わり、しばらくすると元の表示に戻ります。表示された時間がたつと、電源が切れます。

スリープタイマーが働いているときは、「・」が点滅します。



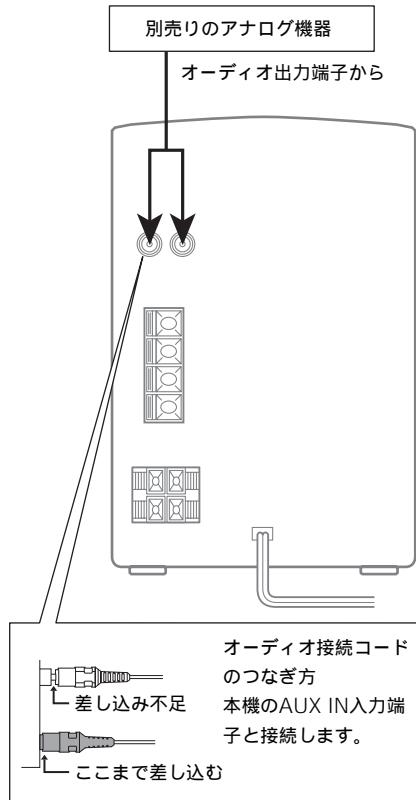
こんなときは	操作
残り時間を確認する	スリープボタンを長く押す。
途中で時間を変える	手順1からやり直して、時間を選び直す。
スリープタイマーを解除する	手順2で「OFF」を表示させる。

ご注意
テープ再生中に電源が切れると、▶は元に戻りません。■を押してボタンを元に戻してください。

別売りの機器を使う

別売り機器をつなぐ

つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



AUX IN入力端子

オーディオ接続コード（別売り）を使って、別売り機器（カセットデッキ、レコードプレーヤーなど）をつなぎます。本機でアナログ音声を録音したり、聞いたりできます。

別売り機器の音を本機のスピーカーで聞く

1 オーディオ接続コードをつなぐ

- ファンクションボタンをくり返し押して（または本体の外部入力ボタンを押して）「AUX」を表示させる

別売り機器の再生を始めてください。

ちょっと一言

- レコードプレーヤーを接続するときは、フォノイコライザ内蔵型のレコードプレーヤーをつないでください。
お使いのレコードプレーヤーにフォノイコライザが内蔵されているかどうかは、お使いになっているプレーヤーの製造元へお問い合わせください。
- 別売り機器の音を録音するには、16ページの「好きなところから録音する」をご覧ください。

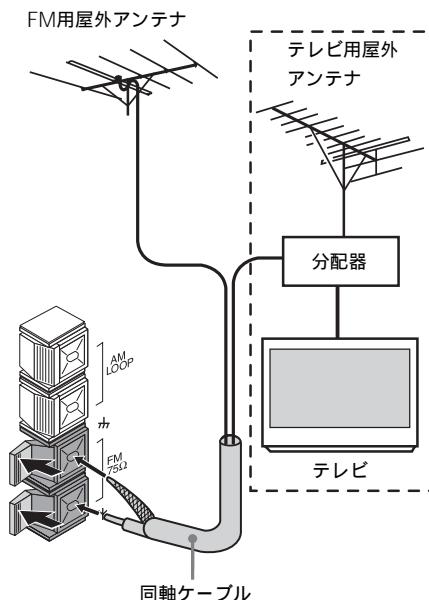
市販の外部アンテナをつなぐ

付属のアンテナでうまく受信できないときにつなぎます。

FMアンテナをつなぐ

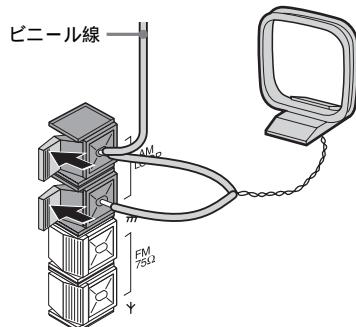
市販のFM屋外アンテナを設置するか、またはテレビのVHFアンテナと共にします。市販の75Ω同軸ケーブルを使ってつなぎます。同軸ケーブルを使うと、雑音の影響を受けにくくなります。同軸ケーブルは3C-2Vが適当です。

屋外アンテナの購入、取り付けについては、本機をお買い上げいただいた販売店へご相談ください。



AMアンテナをつなぐ

市販の6~15mのビニール線を、窓際や屋外になるべく高く水平に張ります。付属のAMループアンテナはつないだままにしておきます。



ご注意

屋外アンテナをつなぐときは、落雷による危険を防ぐため、 Δ 表示のある端子にアースをつないでください。

症状と原因

修理に出す前に、以下の表を読んで、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、すぐに電源コードを抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、アイワお客様ご相談センターにお問い合わせください。

共通

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	ポリュームが小さい。 → 音量 + を押す。 ヘッドホンを差したままになっている。 → ヘッドホンを抜く。 スピーカーが正しく接続されていない。 → スピーカーコードを正しく接続し直す(5ページ)。
音がおかしい	左右のスピーカーの高さ、距離が極端に違う。 → 高さ、距離をできるだけ対称にする。 付属のスピーカー以外のスピーカーをつないでいる。 → 付属のスピーカーをつなぐ。
雑音が多い	テレビやビデオなど、ノイズを出す機器の近くに設置している。 → 離れたところに設置する。 冷蔵庫など、ノイズを出す機器と同じ電源コンセントにつないでいる。 → 別の電源コンセントにつなぐ。 → 電源ラインのノイズフィルター(市販)を使用する。
表示がおかしい	静電気や電源のノイズなどで、マイコンに不具合が生じた。 → 本機をリセットする(25ページ)。
リモコンで操作できない	リモコンと本体の間に障害物がある。 → 障害物を取り除く。 リモコンと本体の距離が離れすぎている。 → 近寄って操作する。 リモコンの発光部が本体の方を向いていない。 → リモコンを本体に向ける。 リモコンの乾電池が消耗している。 → 乾電池(単3)を交換する。 本体の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。 → 本体と蛍光灯を離して設置する。

CD

症状	原因と対応のしかた
CDぶたが閉まらない	ディスクがトレイの中央に入っていない。 → トレイの中央にディスクを入れ直す。
再生が始まらない	ディスクが入っていない。 → CDぶたを開けて、ディスクが入っているか確認する。 ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。 → 汚れを拭き取る（26ページ）。 ディスクの傷がひどい。 → ディスクを交換する。 再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。 → ディスクを交換する。
	本機で再生できないディスクを入れている（3ページ）。 ディスクがずれて入っている。 → ディスクを正しく入れ直す。
	ディスクが裏返しに入っている。 → 印刷面を上にして、ディスクトレイに入れ直す。
	本機内部のレンズ、または入れたディスクが結露している。 → ディスクを取り出してディスクの水分を拭き取り、本機の電源を入れたまま数時間待つ。
	ディスクが再生状態になっていない。 → 聞く▶を押し、再生状態にする。
音とびがする	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。 → 汚れを拭き取る（26ページ）。 ディスクの傷がひどい。 → ディスクを交換する。 レンズが汚れている。 → 汚れを拭き取る。市販のレンズ拭き取り用布をお使いください。 再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。 → ディスクを交換する。
	本機に振動が加わっている。 → 振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。 → スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。 低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。
再生が1曲目から始まらない	プログラム再生になっている。 → 停止中に止める■を押して、表示窓の「M」を消し、ノーマル再生に戻す。

チューナー(ラジオ)

症状	原因と対応のしかた
雑音が入る/受信できない ('STEREO'が点滅する)	<p>放送局のバンド(FM/AM)、周波数が合っていない。</p> <p>→ バンドと周波数を正しく設定する(11ページ)。</p> <p>アンテナが正しく接続されていない。</p> <p>→ 正しく接続し直す(5ページ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アンテナが受信状態のよい場所に設置されていない。 • 電波が弱い。 <p>→ 受信状態のよい場所(窓の外など)や方向を探し、設置し直す(6ページ)。</p> <p>鉄筋、鉄骨造りのマンションなどの場合、付属のFM簡易アンテナでは十分に受信できない場合があります。窓の外に設置しても受信状態がよくならない場合は、市販の外部アンテナをつなぐことをおすすめします(20ページ)。</p>
	<p>アンテナの一部分を折りたたむ、束ねる、巻き取るなどしている。</p> <p>→ 付属のFM簡易アンテナは全体で受信しているため、余分に感じる部分もそのまま垂らしておく(6ページ)。</p> <p>→ 付属のFM簡易アンテナの先は、テープなどで壁にとめる(6ページ)。</p>
	<p>アンテナの一部分をスピーカーコードといっしょに束ねている。</p> <p>→ スピーカーコードからできるだけ離す。</p> <p>付属のAMアンテナのアンテナ線がプラスチックスタンドからはずれている。</p> <p>→ お近くのソニーサービス窓口へご相談ください。</p>
電気器具の影響を受けている。	<p>電気器具の影響を受けている。</p> <p>→ 電気器具の電源を切ってみる。</p>
ステレオにならない	<p>モノラル受信の設定になっている。</p> <p>→ モードボタン(または本体のFMモードボタン)をくり返し押して「MONO」を消灯させる。</p>
AM放送を受信している。	<p>AM放送を受信している。</p> <p>→ 本機ではAM放送をステレオ受信しません。</p>
受信状態が悪い。	<p>→ 症状「雑音が入る/受信できない」を参照し、アンテナの状態を確認する。</p>

テープ

症状	原因と対応のしかた
再生音や録音した音が小さい	ヘッドが汚れている。 → ヘッドのお手入れをする（27ページ） ヘッドが磁化している。 → ヘッドを消磁する（27ページ）
前の録音が完全に消えない	TYPE I（ノーマル）以外のテープを使っている。 → TYPE I（ノーマル）のテープを使う。 ヘッドが磁化している。 → ヘッドを消磁する（27ページ）
音がとぎれる	内部のピンチローラーなどが汚れている。 → 市販のクリーニングカセットを使って、お手入れする。
雑音が多い	ヘッドが磁化している。 → ヘッドを消磁する（27ページ）
録音できない	テープが入っていない。 → テープを入れる。 テープのツメが折れている。 → ツメの部分だけ穴をふさぐ（27ページ） テープが最後まで巻きとられている。 → テープを巻き戻す。
録音のはじめの音がとぎれる	テープ両端の透明または半透明の部分には録音できない。 → テープを少し進めてから録音を始める。

別売り機器

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	本機が正しい状態になっていない。 → 共通「音が出ない」を参照し、本機の状態を確認する。 別売りの機器が正しく接続されていない。 → 以下の点を確認しながら正しく接続し直す（19ページ）。 <ul style="list-style-type: none">• 接続コードが正しい位置に接続されているか。• 接続コードのコネクターがしっかり奥まで差し込まれているか。 つないだ機器の電源が入っていない。 → 電源を入れる。
	つないだ機器での再生が始まっていない。 → つないだ機器の説明書を見て、再生を始める。
	ファンクションが「AUX」になっていない。 → ファンクションボタンをくり返し押して（または本体の外部入力ボタンを押して）「AUX」を表示させる（19ページ）。

症状	原因と対応のしかた
音が歪む	AUX IN入力端子につないだ機器からのアナログ録音中に、規定以上の大きな信号が入ってきた。 → 本機へ入力される音を小さくする。
レコードプレーヤーからの音が小さい	レコードプレーヤーを直接つないでいる。 → つないでいるレコードプレーヤーに、フォノイコライザーが内蔵されているか確認する。内蔵されていないときは、本機とプレーヤーの間に、イコライザー（別売り）をつなぐ。

これらの処置をしても正常に動作しないときは リセット

- 1 電源コードを抜く。
- 2 電源コードを入れる。
- 3 本体の（電源）スイッチを押しながら、同時に本体のメモリー ■を押す。
- 4 電源を入れる。

設定がリセットされてお買い上げ時の状態に戻ります。ラジオ局のプリセットをやり直してください。

使用上のご注意

設置時のご注意

- ・オーディオ機器は、密閉した場所に置いて使用しないで、温度上昇を防ぐために風通しの良い所でお使いください。
- ・スピーカーの近くに磁気を発生するもの（健康器具、玩具など）を置くと、相互作用でテレビ画面に色むらが起りやすくなります。設置場所にご注意ください。
- ・特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本体およびスピーカーなどを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。

使用時の放熱について

- ・使用中、本体の温度が上昇することがあります
が、故障ではありません。
- ・大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板、通風孔はかなり熱くなります。
このようなときは、キャビネットなどに触れない
ようにしてください。火傷などのけがの原因にな
ります。
- また、動作中の温度上昇を避けるために空冷ファンを搭載している機器では、大きな音を出したときなどにファンが回転します。ファンの通風孔付近を塞いで使用すると、機器の温度が上昇して故障の原因になります。
- ・電源を切っているにもかかわらず、本機の天板があたたかくなることがありますが故障ではありません。電源コードがコンセントに差し込まれている限り、電源を切っているときでも本機の一部には電流が流れています。それらは、リモコンでの操作の待ち受けなどのために使われています。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーは防磁型ではありません。そのため、本機のスピーカーをテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起ります。テレビから離してお使いください。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15~30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

移動時のご注意

- ・必ずCDやテープを取り出してください。中に入
れたまま動かすと、取り出せなくなることがあります。
- ・移動する前に、電源が切れ、すべての動作が終了
していることを必ず確認してください。

使用時のご注意

- ・CDぶたを開けたまま放置しないでください。内
部にゴミやほこりが入り、故障の原因になること
があります。
- ・本機のスピーカーには強力な磁石を使っています。
次のようなものは本機のそばに置かないでく
ださい。磁気が変化して不具合が起きることがあ
ります。
 - － 時計
 - － クレジットカードなどの磁気カード
 - － カセットテープ、ビデオテープなどの磁気
テープ
- ・カセットデッキを長い間使わなかったときは、數
分間再生状態にして、ならし運転をしてく
ださい。

ディスクの取り扱いのかた

- ・紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないで
ください。
- ・本機でお使いいただけるCDは、円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- ・ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中
心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいと
ときは、少し湿らせた布で拭いた後、乾いた布で水
気を拭き取ってください。ベンジンやレコードクリー
ナー、静電気防止剤などは使わないでください。
- ・直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、
高音になるところには置かないでください。
- ・中古ディスクやレンタルディスクで、シールなどの
のりがはみ出したり、付着しているディスクは
使用しないでください。プレーヤー内部にディス
クが貼り付いて取り出せなくなったり、プレー
ヤー本体の故障の原因となります。

お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布などで拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので、使わないでください。

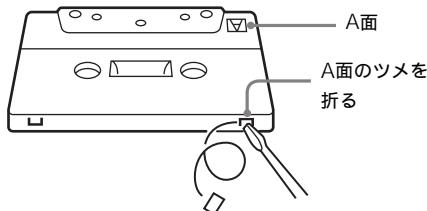
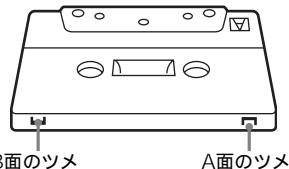
カセットテープを入れる前に

テープのたるみをとってください。たるんでいるとテープが巻き込まれて使えなくなることがあります。

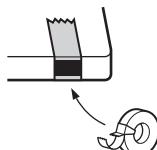
長時間テープの使用は避けてください

90分を超える長時間テープは、テープ自体が薄く伸びやすい性質となっています。そのため機械に巻き込まれ、本機の故障の原因となる場合があります。ご使用をお避けください。

テープの録音内容を消したくないときは
消したくない面の誤消去防止ツメを折ります。



ツメを折っても、折ったツメの部分だけ穴をふさげ
ば再び録音できます。



ヘッドのお手入れ

ヘッドはおよそ10時間使うごとにクリーニングしてください。

汚れがひどくなると、音が悪い、音が小さい、音がとぎれる、前の音が消えないで残る、録音ができない、などの症状が出ます。

また、特に大切な録音をする前や古いテープを使用した後には、かならずクリーニングしてください。別売りのクリーニングカセット（乾式）C-1KN、または、クリーニングカセット（湿式）CHK-1をお使いください。詳しくはそれぞれのクリーニングカセットの取扱説明書をご覧ください。

ヘッドを消磁する

ヘッドやテープのあたる金属部分は、20～30時間使うごとに別売りのカセットタイプのヘッド消磁器で消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の取扱説明書をご覧ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- ・ この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- ・ 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- ・ 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または添付の「アイワご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間にについて
当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- ・ 型名 : LCX-T120
- ・ 故障の状態 : できるだけ詳しく
- ・ 購入年月日 :

主な仕様

本体 (CX-LT120)

アンプ部

実用最大出力	2.5W + 2.5W (JEITA [*] 6Ω負荷)
入力端子	AUX IN端子 : 600mV、47kΩ以上
出力端子	ヘッドホン端子 : ステレオミニジャック、8Ω以上

CDプレーヤー部

形式	CDプレーヤー
信号方式	JEITA [*] 標準
周波数特性	20Hz ~ 20kHz

カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
周波数特性	ソニーTYPE Iカセット
	50 ~ 12,500Hz

チューナー部

受信周波数	FM/テレビ (1~3ch) : 76 ~ 108MHz AM : 531 ~ 1,602kHz
アンテナ端子	FM/テレビ : 75Ω不平衡型 AM : 外部アンテナ端子

スピーカーシステム (SSX-LT120)

型式	1ウェイバスレフ型
使用スピーカー	フルレンジ10cm インピーダンス : 6Ω

その他

電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	20W : 通常動作時 (JEITA [*]) 0.9W以下 : スタンバイ (節電モード) 時
最大外形寸法 (幅×高さ×奥行き、最大突起部含む)	アンプ/CDプレーヤー/カセットデッキ/ チューナー部 : 145×215×206mm
質量	スピーカーシステム部 : 130×211×201mm
付属品	アンプ/CDプレーヤー/カセットデッキ/ チューナー部 : 2.1kg
	スピーカーシステム部 : 1.7kg (1台)
	リモートコマンダー(1)
	単3形乾電池(2)
	FM用簡易アンテナ(1)
	AMループアンテナ(1)
	取扱説明書(1)
	安全のために(1)
	アイワご相談窓口のご案内(1)
	保証書(1)
	テクニカルインフォメーションセンター のご案内(1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更するこ
とがありますが、ご了承ください。

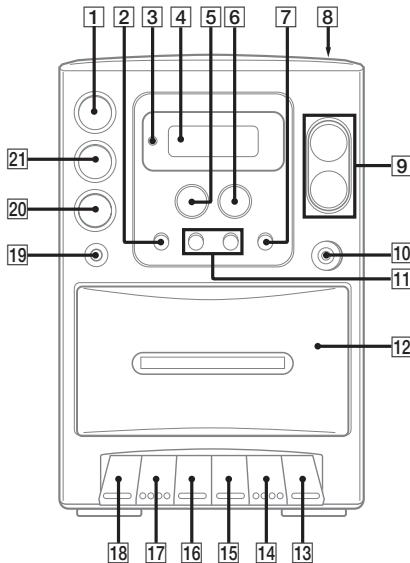
* JEITA (電子情報技術産業協会) 規格による測定
値です。



- 待機時消費電力0.9W以下
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装に非塩ビ系素材を使用

各部のなまえ

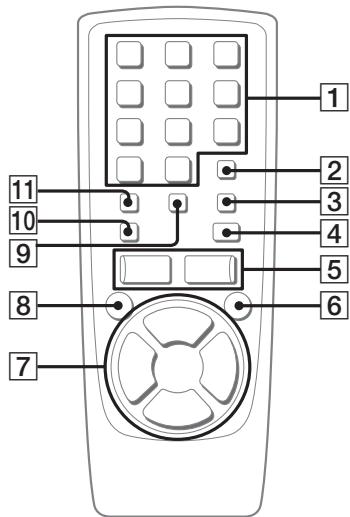
本体



- ① Ⓛ(電源)スイッチ
テープボタン(14ページ)
- ② クリ返しボタン(9ページ)
エフェク
FM モードボタン(13ページ)
- ③ スタンバイランプ
- ④ 表示窓
- ⑤ メモリー■(停止)ボタン
- ⑥ プリセット▶■(再生/一時停止)ボタ
ン
- ⑦ 音楽ジャンルボタン(17ページ)
オープ
- ⑧ OPEN(ディスク取り出し)ボタン(8
ページ)
ディスクトレイ
- ⑨ 音量+/-ボタン
- ⑩ ヘッドホン端子
- ⑪ ◀◀/▶▶(早戻し/早送り)ボタン
◀◀/▶▶(頭出し)ボタン
選局▲/▼ボタン
- ⑫ テープデッキ
- ⑬ ■(テープ一時停止)ボタン
- ⑭ ▲(テープ取り出し)ボタン
■(テープ停止)ボタン
- ⑮ ▶▶(テープ早送り)ボタン
- ⑯ ◀◀(テープ早戻し)ボタン
- ⑰ ▶(テープ再生)ボタン
- ⑱ ●(テープ録音)ボタン
- ⑲ 外部入力ボタン(16、19ページ)
シーディー
- ⑳ CDボタン(9、15ページ)
- ㉑ チューナーバンドボタン(11ページ)

リモコン

リモコンではテープの操作はできません。
テープの操作は本体のボタンを使います。



- ① 数字入力ボタン (9、13ページ)
- ② くり返しボタン (9ページ)
- ③ モードボタン (13ページ)
- ④ ファンクションボタン (8、19ページ)
- ⑤ 音量 +/ - ボタン
- ⑥ 一時停止■ (一時停止) ボタン
- ⑦ 聞く▶ (再生) ボタン
- ⑧ 頭出し◀◀/▶▶ (頭出し) ボタン
- ⑨ サーチ◀◀/▶▶ (早戻し/早送り) ボタン
- ⑩ 止める■ (停止) ボタン
- ⑪ 電源スイッチ
- ⑫ 音楽ジャンルボタン (17ページ)
- ⑬ バンドボタン (11ページ)
- ⑭ 表示切換ボタン (17ページ)

索引

あ行

音質の調節 17

か行

誤消去防止ツメ 27

さ行

サーチ 9

自動受信 11

手動受信 12

シンクロ録音 15

スリープタイマー 18

接続

アンテナ 4

外部アンテナ 20

スピーカー 4

別売りの機器 19

ま行

マニュアル受信 13

マニュアル録音 16

ら行

リセット 25

リピート再生 9

わ行

ワンタッチプレイ 9

A-Z

AMアンテナ 5

FMアンテナ 5

は行

プリセット受信 12

プログラム再生 10

アイワ商品の修理、お取扱い方法、お買い物相談、その他アイワに関するお問い合わせ

アイワホームページ ● <http://www.jp.aiwa.com/>

アイワホームページは、アイワの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「サポート情報」や「よくあるご質問(FAQ)」に関しては、ホームページをご活用ください。

アイワお客様ご相談センター

● ナビダイヤル  0570-00-4680

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。)

● 携帯電話・PHSでのご利用は 0466-31-4833

(ナビダイヤルがご利用になれない場合はこちらをご利用ください。)

受付時間：月～金曜日 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00

*修理に関するお問い合わせはFAXでもお受けしております。

● FAX 0466-31-4250

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35